

**東急電鉄とグロービス経営大学院が共同研修を開催
「2022年の渋谷」に向け、東急電鉄の社員とMBA外国人留学生在がインバウンド施策を共同で提案**

東京急行電鉄株式会社
グロービス経営大学院

東京急行電鉄株式会社(以下、東急電鉄)とグロービス経営大学院(以下、グロービス)は、8月17日(日)から30日(土)までの14日間、「グローバル・シェアリング・プログラム」(以下、当プログラム)を実施します。

当プログラムでは、東急電鉄の社員とグロービスMBAプログラム※の外国人留学生(2014年9月入学予定者)が、東京都内のホテルでシェアハウス形式の共同生活を送りながら、さまざまな研修プログラムに参加します。特に「2022年に渋谷が世界一訪れたい街になるために何をすべきか」というテーマについては、数日間の共同協議を通して具体的なアクションプランを策定し、各グループで発表します。当プログラムは主に平日夜間に実施し、週末にはフィールドトリップなどを行います。使用言語はすべて英語です。

東急電鉄は「日本一訪れたい街 渋谷」の実現を目指し、渋谷の魅力を高めるさまざまな施策を検討・実施しており、MBA留学生へのオリエンテーション機会を模索していたグロービスと、当プログラムを共同開催する運びとなりました。昨年初めて開催されたプログラムでは、東急電鉄が渋谷のインバウンド対応として検討していた、外国人旅行者向けフリーWi-Fiサービスが当プログラムを通じて提案され、2014年3月に「Visit SHIBUYA Wi-Fi」として実現される一助となりました。

東急電鉄は、当プログラムを通じて、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催の先を見据え、インバウンド強化を目的としたグローバル人材の育成に取り組んでいきます。

以 上

●当プログラムの実施風景(2013年)



注：グロービス経営大学院は、2012年10月、1年間でMBAを取得する英語MBAフルタイムプログラム(全日制)を開学しました。1年目は12カ国から23人が入学し、2年目は14カ国から28名、3年目となる2014年度は17カ国から31名が入学予定です。

【別紙】

1. グローバル・シェアリング・プログラムの概要

- (1) 期間： 2014年8月17日(日)から8月30日(土)までの14日間
- (2) 会場： 赤坂エクセルホテル東急
- (3) 内容： プログラムテーマ「2022年に渋谷が世界一訪れたい街になるために何をすべきか」
 - イングリッシュ・ディスカッション・カフェ
プログラム参加者による全4回のグループワーク
 - フィールドトリップ(渋谷)
テーマに対するアクションプランに基づくフィールドトリップ
 - グロービス特別講座
グロービス講師による「クリティカル・シンキング」「ダイバーシティ論」「マーケティング・経営戦略」
 - アクションプラン発表
 - トップリーダー講演3名

2. 昨年のプログラムで複数提案された「VISIT SHIBUYA Wi-Fi」

2011年に実施された観光庁の調査では、外国人観光客が旅行中に最も困ったこととして、無料Wi-Fi環境が整っていないことが挙げられています。「VISIT SHIBUYA Wi-Fi」は、渋谷駅周辺に無料Wi-Fi 環境を整備することで、外国人旅行者が渋谷の街の情報を取得し、SNSなどでご自身の体験を発信するなど、行動の広がりによる来街者の増加と回遊の促進を目的として、2013年3月に東急電鉄とイツコム(イツ・コミュニケーションズ株式会社)が開始しました。



以 上